

釜山ロードマップ
(ボゴール目標達成のための重要分野:2005年策定)

- ① 多角的貿易体制(WTO)への支持
- ② 共同行動計画/個別行動計画の強化 (注1)
- ③ 質の高いFTAの推進
- ④ 釜山ビジネスアジェンダ
(ビジネス環境円滑化のプログラム策定)
 - ・貿易取引費用の削減
 - ・模倣品・海賊版対策の推進
 - ・投資の自由化・円滑化の推進
 - ・公的・私的腐敗の削減
 - ・中小企業対策等の強化
 - ・安全な貿易の確保
 - ・構造改革への取組の推進
- ⑤ 能力構築の強化
- ⑥ パスファインダー (注3)

ハノイ行動計画(具体的な取組の特定)

○取組内容

- ①・APECからWTO交渉へのインプットの提供
・ITA(情報技術協定)の対象範囲に関する議論 等
- ②・個別行動計画(IAP^{注1})の提出、IAPピアレビュー
- ③・FTAモデル措置の策定 等
- ④・貿易円滑化行動計画(TFAP2)の策定 等
 - ・知財関連モデルガイドラインの実施 等
 - ・投資の自由化・円滑化に向けた研究・分析の実施 等
 - ・APEC透明性基準や国連腐敗防止条約の実施 等
 - ・中小企業等のビジネス環境改善に向けたイニシアティブの実施等
 - ・ICPOデータベースへの紛失盗難旅券情報の提供 等
 - ・LAISR2010^(注2)の実施 等
 - ・その他税関手続、標準化、人の移動、電子商取引分野での取組
- ⑤・衡平な成長と繁栄の共有のための各種協力の実施
- ⑥・新たな分野でのパスファインダー・イニシアティブ^(注3)の実施の検討

○実施:IAP、IAPピアレビュー、ABAC^(注4)との連携 等

○早期実施

- ・2006年までの貿易取引費用の5%削減
- ・いくつかの分野でのFTAモデル措置の策定
- ・知財関連のモデルガイドラインの策定 等

ボゴール目標
(2010年* / 2020年**
年までに自由で開かれた貿易投資)の達成

(注1)ボゴール目標達成のための自主的取組を推進するための計画。個別行動計画は毎年各国・地域が提出し、3年に一度内容が審査される(IAPピアレビュー)。

(注2)2010年に向けた構造改革実施のためのAPEC作業計画。

(注3)対応可能な一部のエコノミーがAPECの活動を先行的に実施できたもの。その後の幅広い参加を奨励することでAPEC活動の推進に寄与。*

(注4)APECビジネス諮問委員会。ビジネス界からの提言を毎年APEC首脳に提出。
** : 途上国・地域の達成期限